

## 令和2年度第2回タンチョウ保護増殖検討会 議事概要

■日 時：令和3年3月17日（水）14：00～16：00

■場 所：○札幌会場：札幌エルプラザ 環境研修室（1・2）

○釧路会場：鶴居村総合センター 多目的ホール

### ■出席者一覧（敬称略）：

<保護増殖検討委員>（かっこ内は参加会場）

正富 宏之 専修大学北海道短期大学 名誉教授（札幌）

藤巻 裕蔵 帯広畜産大学 名誉教授（札幌）

黒澤 信道 公益財団法人 日本野鳥の会 釧路支部長（ご欠席）

小川 巖 エコ・ネットワーク 代表（札幌）

百瀬 邦和 NPO 法人 タンチョウ保護研究グループ 理事長（釧路）

松本 文雄 釧路市動物園 主幹（釧路）

赤坂 卓美 帯広畜産大学 助教（釧路）

<関係機関>

北海道開発局開発監理部開発連携推進課、北海道森林管理局計画保全部計画課、根釧西部森林管理署、北海道環境生活部環境局自然環境課、北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課、北海道釧路総合振興局保健環境部環境生活課、北海道根室振興局保健環境部環境生活課、釧路市動物園、釧路市役所市民環境部環境保全課、標茶村役場農林課林政係、鶴居村教育委員会、鶴居村役場産業振興課、鶴居村タンチョウ愛護会、公益財団法人日本野鳥の会鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ、公益財団法人日本鳥類保護連盟釧路支部、一般社団法人タンチョウ研究所、国際タンチョウネットワーク

<事務局>

環境省北海道地方環境事務所、環境省釧路自然環境事務所、環境省釧路湿原自然保護官事務所、NPO 法人 EnVision 環境保全事務所

### ■議事概要

#### 議事1. タンチョウ生息地分散行動計画の進捗状況の評価（案）

##### （1）環境省からの事業実施報告

環境省より、資料（タンチョウ生息地分散行動計画の進捗状況の評価（案））及び添付資料1～7（タンチョウ生息地分散行動計画、タンチョウ生息地分散行動計画の項目整理表、環境省取組業務一覧、タンチョウの取組聞き取りアンケート様式、環境省及び関係者の取組整理表、アンケート結果取りまとめ、タンチョウの評価に係るデータ一覧、保護増殖検討会委員へのレビュー結果）について説明した。

## (2) NPO 法人 EnVision 環境保全事務所からの事業実施報告

NPO 法人 EnVision 環境保全事務所から資料（タンチョウ生息地分散行動計画の進捗状況の評価（案））について説明した。

### <主な意見・質問>

#### 資料（タンチョウ生息地分散行動計画の進捗状況の評価（案））

##### 3-1.環境省の取組の状況の整理

- ・鶴居村の給餌場（鶴見台、鶴居サンクチュアリ）での給餌量削減により、近隣農場における農業被害が増加しているため、給餌量削減の一時中止を提案する。（黒澤委員。ご欠席につき事前にコメント受）
- 令和 2 年度第 1 回タンチョウ保護増殖検討会において環境省から示した給餌量調整の方針案の中で、今年度の給餌削減量については、平成 26 年度比で 1 割ずつ減ではなく、前年度比で 1 割減としていたが、来年度の方針はまだ決まっていない。今年度の結果を踏まえ、総合的に結果を勘案して、来年度の検討会で再度方針案を相談したい。（環境省）

##### 4.タンチョウの生息・分散状況の現状把握と評価

- ・繁殖地および営巣数の把握については、過去に航空機による調査が行われてきたが、現在では生息範囲の拡大により全域をカバーできない等の理由から現実的ではない。一方で、野鳥観察者や調査者などの協力を求める手法は現実的であり、環境省として積極的に情報を集めるべきだと考える。（黒澤委員）
- 航空調査、ドローン調査、グラウンドレベルの調査等について、その費用対効果、優先順位も勘案した上で、地域の実情等に即した適切な方法を今後検討していく必要があると考えている。（環境省）

#### 資料（タンチョウ生息地分散行動計画の進捗状況の評価概要（案））

##### 3 評価 (3)まとめ

- ・1 羽当たりの平均給餌量が 300g から 250g になっているのは、減っているという判断か、変わらないという判断か。（松本委員）
- やや減っているという判断。給餌削減量は平成 26 年度の給餌量からの半減で、必要量（300g/羽）からの半減ではないため、必要量に大きく切り込んだ削減量にはなっていない。そのため、給餌場に飛来する個体数や利用状況にはやや影響しているが、さらに分散が促進されるまでに至る量ではないと考えている。（環境省）
- ・今後の給餌量削減に関しては、周辺の農場への侵入防止対策をセットに考えていただかないと、単純に削減を続けていった場合のリスクはかなりあり、鶴居村での状況が、

今後周辺に影響を与える可能性が高いと考えているので、配慮を十分をお願いしたい。

(公益財団法人日本野鳥の会鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ)

- ・ 300g と 250g の算出方法がそもそも違うのではないか。250g は総給餌量を最多飛来羽数の累計で割った値になっているが、300g が必要と示した同じ観察方法をとらないと評価が難しいように感じた。(鶴居村教育委員会)
- 今後の課題として、ご意見を踏まえていく。ただ、概要には細かすぎる内容になるので、本体資料に含めるか、この検討会の意見をまとめて来年度以降の分散行動計画の改訂に向けた検討の参考にするかを調整していきたいと考えている。(環境省)
- ・ 今年度、長沼の千歳川沿いに遊水地が 6 箇所完成するが、道央という漠然なものではなく、道央の遊水地をタンチョウの有力な進出拠点として位置づけ明確化しても良いのではないか。(小川委員)
- 開発局と調整していきたい。(環境省)
- 実績として、千歳川沿いに 6 つの遊水地が完成したが、長沼町との調整は順調だが、他の自治体は農業被害への懸念から慎重になっているようだ。今回は具体的な記載はできなかったが、今後情報共有をしながら進めていければと考えている。(開発局)

#### **4 課題と今後の方向性**

- ・ 当該箇所に記載された事項を基に今後進めていくかと思うが、具体的な対策が既にある程度固まっているのか。(松本委員)
- 今回は 8 年間の整理を中心に行い、大まかな課題、方向性が見えてきた。来年度からはこの結果を踏まえて計画を見直すかどうか等、具体的な議論をしていきたい。(環境省)

#### **資料 5-1 (環境省及び関係者の取組整理表)**

- ・ 現在タンチョウに関連する団体が多く存在し、今後、繁殖分布が広がるとそのような団体が更に増えると考えている。それぞれの団体は独自の活動をしていく上で、環境省の保護増殖事業の趣旨を理解することが大切になってくると考えるが、そういった団体への働きかけについてどのように考えているか。(藤巻座長)
- 環境省としては様々な枠組で援助することができると考えている。道庁や開発局などと、協力して実施していきたい。(環境省)